

令和6年度研究推進計画

廿日市市立地御前小学校

1 学校教育目標

主体的に学び 他と協働しながら解決していく児童の育成

～「自分で考えよう」「自分で選ぼう」「仲間と進めよう」～

2 本校の資質能力

主体性・積極性

自己調整力

思考力・表現力

自己有用感

協調性

※ は、特に重視する資質・能力

3 研究主題

主体的に学び，自己調整できる児童の育成

～自由進度学習の取組を中心として～

4 研究主題設定の理由

今、私たちは大きな社会の変革期にいる。人工知能（AI）やビックデータ等を活用したサービスやビジネスが創出されたり，定型的な仕事は AI に代替されたりして，大きく産業・働き方が変化しようとしている。こうした予測不可能な未来社会においては，生涯にわたって 主体的に学び続け，多様な人々と協働して，新たな価値を創造しようとする自律的な生き方が求められると言われている。未来社会を生きる本校の子供たちにこうした生き方の基礎を培うためには，学びの在り方を「知識ベース学び」に加え，知識を活用・発揮し，協働して新たな価値を生み出そうとする「主体的な学び」を促す教育活動を積極的に推進する必要があると考える。

本校の児童は，素直に与えられた課題に取り組む反面，受け身で指示待ちなところがあり，自ら課題を見つけ，考え，行動する意欲が弱い。すなわち主体的に取り組む姿がなかなか見られない。

昨年度は「主体的に学び，自己調整できる児童の育成」という研究主題のもと，算数科を中心に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業改善を行った。具体的な取組として，児童に学習計画表を提示し，目標に向かって自ら学習を進める自由進度学習にチャレンジした。それにより，見通しをもち，自分で学習を進める児童の姿を見ることができた。

児童のアンケート結果では，「学習計画表などを使って，自分で考えて学習を進めたり振り返ったりしていますか」という問いに対し，82%の児童が肯定的評価をした。また，学期末テストの「知識及び技能」では，85 点以上の人数の割合が 80%だった。

しかし，学年によっては 85 点以上の児童の割合が 68%と学力差も大きく，さらに「振り返りを書くことで学びのつながりを感じることができていますか」という問いに対しては 78%の肯定的評

価にとどまった。これらのことから、自分の学びをメタ認知しながら学習を進めること、その前提として基礎的な知識や技能の定着に依然として課題があるということがわかった。特に算数に苦手意識を持っている児童にその課題が多くあり、その児童に学習の楽しさ、できる喜びを伝えきれていないということや、どの児童も満足できるような授業展開ができないという教職員の悩みがある。

こうした課題の大きな要因として、学習進度や能力、関心等が異なる多様な児童に対し、これまで、学びを自分との関わりで捉えさせる学習活動や多様な学びの機会（選択肢）を提供することが乏しかったことがあると考えた。

そこで今年度は、より個の実態に応じた学習活動を積極的に推進することが必要であると考え、算数科を中心に、基礎的な知識や技能の定着を目指す「自立的な学び」の場面と、友だちと協働し知識を活用・発揮・表現する「協働的な学び」の場면을明確にし、組み合わせることにより、主体的に学ぶ児童を育てたいと考えた。

こうした学びを推進するに当たっては、学級の支持的風土が基盤となるので、より良い学級づくりが欠かせない。また、ICT の活用が有効であることから、積極的な活用を図っていく。さらに、主体的な学びを促すためには、わかる楽しさやできる喜びなどを感じ、自己の成長を児童自身が自覚することが重要であることから、自己の学びを蓄積し、振り返る（メタ認知）機会を積極的に設定していく。なお、こうした研究の前提として、全ての教職員が教育理念・目指す姿を共有し、子供たちの多様性を尊重し、それに応じた教育活動について実践を通して研究する必要がある。

5 研究仮説

自由進度学習を中心に「自立した学び」と「協働的な学び」の学習活動を工夫することで、より主体的に学ぶ児童が育成されるだろう。

6 研究の内容と具体的な取組

（１）「自立した学び」の取組～自由進度学習を柱とする～

一人一人の学習進度や能力等に応じた多様な学びの機会を効率的に提供することで、基礎的な知識・技能の定着を図る。

- ・方法、見通し、計画等を自己決定・自己選択し、自分のペースで進める学習活動の重視
- ・当該単元のゴール・目標・学び方について児童と共有
（目標・学び方についてのオリエンテーションの設定）
- ・一人一人の理解・進捗状況の詳細な把握による個別支援の充実
- ・教え合い・学び合いの推進
- ・学ぶ意欲を喚起する学習環境づくり
- ・算数科を中心に年間２単元以上実施。

（１年生は、２，３学期，６年生は１，２学期で行う。）

（２）「協働的な学び」の取組

問題場面や一人一人の思考の過程等を可視化し、学びの共有化を図ることで、他者と協働して学びを深め、児童の思考力、判断力、表現力を育成する学びの場。

- ・自由進度学習の中でのゆるやかな協働
- ・多様な他者と適切に学び合う場の設定（ペアで，グループで，全体で）
- ・思考の共有・分類等の可視化
- ・多様な表現方法の重視（図，絵，式，言葉等や話型を使って伝える。）

（３）振り返りの充実

自己の学びを蓄積し振り返ることで，自己の成長を自覚し，新た学びへの意欲につなげる機会にする。（自己調整力）

- ・振り返りによる学びの整理の推進
- ・「学び方」についても振り返る。
- ・自己評価と他者評価の融合

（４）ICT の活用

- ・ロイロノート，Google Classroom の効果的な活用
- ・児童の学習の成果物の蓄積
- ・児童の支援，評価，その後の学習計画への反映への活用

7 検証計画（検証方法及び数値目標）

（１）基礎的な知識・技能が定着したか。

- ・単元末テストにおいて，「知識・技能」の正答率が 85%以上の児童の割合が 85%以上

（２）自己調整力が向上したか。

- ・児童アンケートにおいて，「振り返りを書くことで学びのつながりを感じることができています。」と肯定的な回答の割合を 85%以上

（３）主体性は高まったか。

- ・児童アンケートにおいて「自分で考え，進んで学習を進めたり振り返ったりしています。」と肯定的な回答の割合を 85%以上

8 研究の方法

（１）研究主題に関わる研究については全体研修を計画し，児童に主体的に学び，自分の考えを表現できる授業改善を行う。

- ・先進校視察及びその共有
- ・研究の方向性による意識統一
- ・授業・取組の交流
- ・研究授業および研究協議（複数学年で協同して教材研究に取り組む。）

（２）研究授業を 1 回以上廿日市市内に公開する。

（３）児童の実態把握のために，意識調査を行う。

- ・算数科についてのアンケート（児童対象 5 月，11 月）

9 研究計画（詳細は別紙）

- ・ブロック研は行わず，全体研のみ行う。
 - 1 学期・・・（2 年），4 年
 - 2 学期・・・1 年（学びの変革推進協議会）
2 年，6 年
 - 3 学期・・・3 年，5 年
- ・授業研では，全職員が授業準備に関わる。2 学年同時に授業研究を行う場合は，低学年と高学年に分かれて関わる。
 - 低学年部会・・・1，2，3 年担任，和田，藤川，小山，河相（渉）（二野宮）
 - 高学年部会・・・4，5，6 年担任，亀本，熊谷，岡部，富田，（二野宮）
（なかま学級担任は，流動的に所属する。）
- ・一つの研究授業につき，①授業の構想（当該学年のみ），②授業の準備 の校内研修を行う。
- ・全体研修は，低学年を 4 校時，高学年を 5 校時に実施し，全職員が参観する。
（4 校時，研究授業クラス以外は自習体制をとり，学年で交代して参観する。
5 校時，研究授業クラス以外は，4 校時で下校させ，全員が参観する。）
- ・9 月に「学びの変革推進協議会」で 1 年生が授業を公開する。本校職員は，当日以外の日に参観する。

学校教育目標

主体的に学び 他と協働しながら解決していく児童の育成

育成したい資質・能力

主体性・積極性, 自己調整力,
思考力・表現力, 自己有用感, 協調性

※ は、特に重視する資質・能力

主体的に学び, 自己調整できる児童の育成

～自由進度学習の取組を中心として～

自立的な学び

…一人一人の学習進度や能力等に応じた多様な学びの機会を提供

自由進度学習を中心として

- ・方法, 見通し, 計画等を自己決定・自己選択し, 自分のペースで進める学習活動の重視
- ・当該単元のゴール・目標・学び方について児童と共有
(目標・学び方についてのオリエンテーションの設定)
- ・一人一人の理解・進捗状況の詳細な把握による個別支援の充実
- ・教え合い・学び合いの推進

協働的な学び

…適切な学び合い
の場の設定

- ・多様な他者と適切に学び合う場の設定
- ・思考の共有・分類等の可視化
- ・多様な表現方法を重視する。

ICT の活用

学びの意欲を喚起する学習環境

振り返りの充実

自己有用感・協調性を育む場づくり

学級の支持的風土

異学年交流